

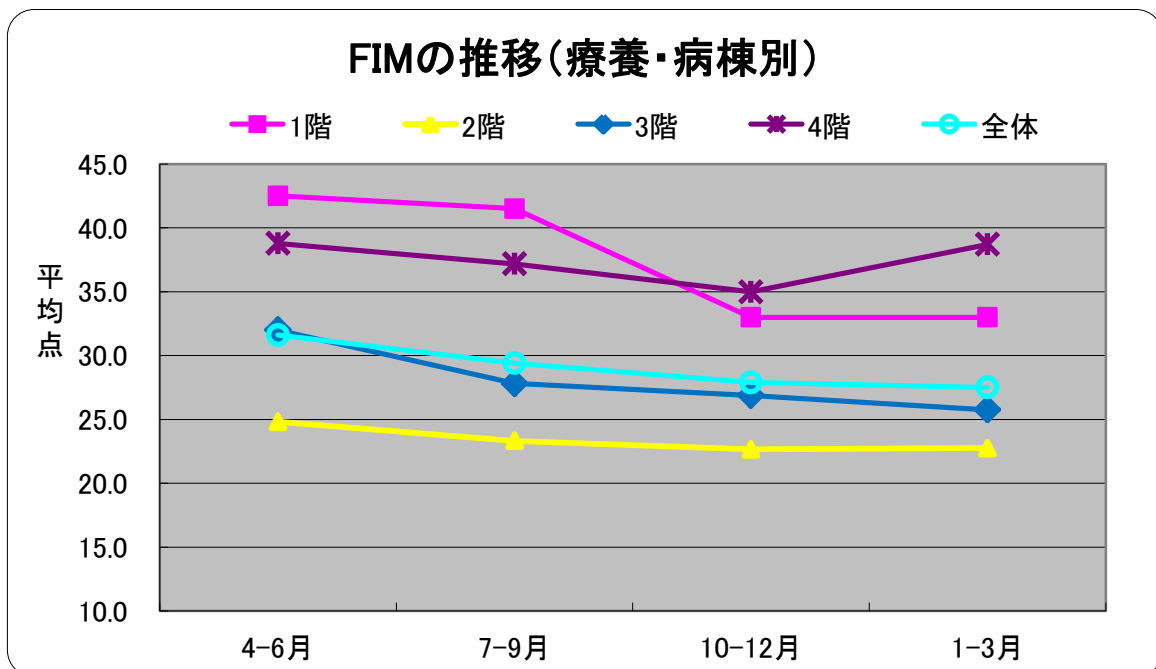
平成28年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

<対象>

- ・ 平成28年4月1日から平成29年3月31日の間で3ヶ月以上の入院患者
- ・ FIM評価を実施した222例
- ・ 年齢：83.0±9.5歳
- ・ 性別：男性78名、女性144名

※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者
 ※ 1階病棟:回復期対象者を除く

<結果>



| 病棟別 | 4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 1-3月 |
|-----|------|------|--------|------|
| 1階 | 42.5 | 41.5 | 33.0 | 33.0 |
| 2階 | 24.8 | 23.3 | 22.7 | 22.8 |
| 3階 | 32.0 | 27.8 | 26.9 | 25.7 |
| 4階 | 38.8 | 37.2 | 35.0 | 38.7 |
| 全体 | 31.6 | 29.4 | 27.9 | 27.5 |

<まとめ>

1階は対象者が少ないため、入退院の影響を受けやすく変動幅が大きくなっている。2階は低値ながら安定している。3階はやや右下がりであり、重症化の傾向となっている。4階は在宅復帰対象者が入院しているため、例年通り高い値を維持している。

療養病棟全体をみると3階に近い値となっている。また、前年度と比較しても低い値になってきていることから、全体的にも重症化がうかがえる。

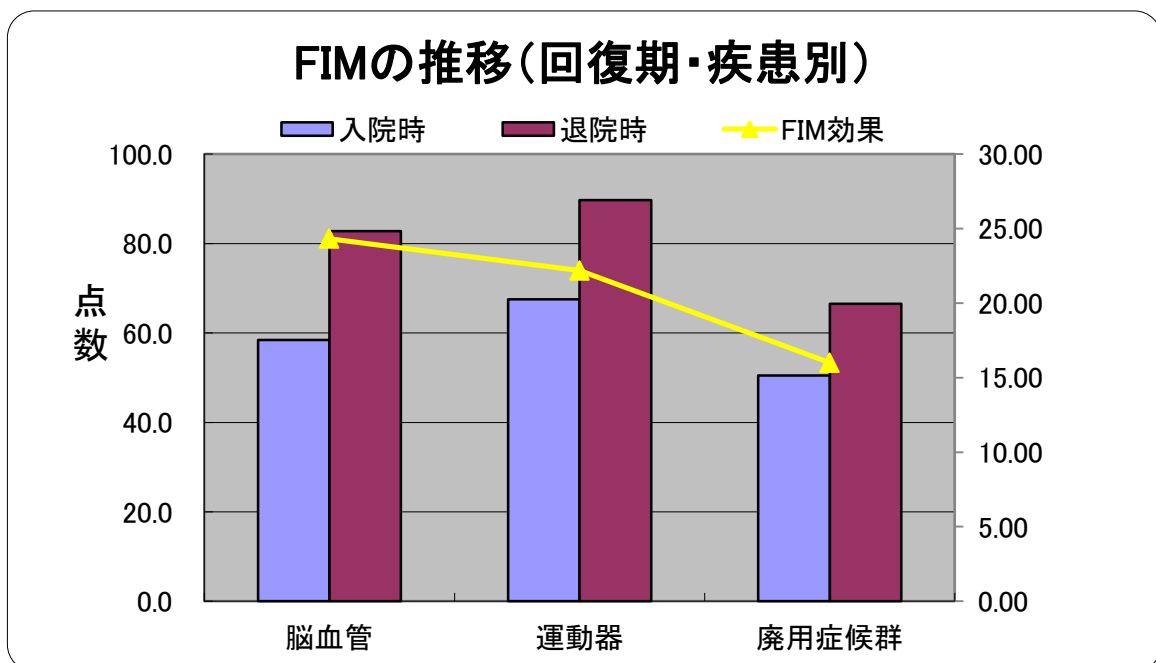
平成28年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

<対象>

- ・ 平成28年4月1日から平成29年3月31日の間で、入院から退院まで至った患者
- ・ 回復期病棟の入院時と退院時でFIM評価を実施した99例
- ・ 年齢：78.2±9.0歳
- ・ 性別：男性50名 女性49名

※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者

<結果>



| | 脳血管 | 運動器 | 廃用症候群 | 全体 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入院時 | 58.5 | 67.5 | 50.5 | 62.0 |
| 退院時 | 82.8 | 89.7 | 66.5 | 85.1 |
| FIM効果 | 24.32 | 22.19 | 16.00 | 23.08 |
| FIM効率 | 0.23 | 0.39 | 0.24 | 0.28 |
| 年齢 | 75.6 | 81.1 | 80.8 | 78.2 |
| 在院日数 | 104.3 | 57.1 | 66.5 | 82.8 |

<まとめ>

運動器、脳血管、廃用症候群の順に入院時および退院時の点数が高くなっている。例年に比べると入院時FIMは下がり、退院時FIMが上がったことから、FIM効果も高い値を示し全国平均を上回る結果となった。しかし、FIM効率になると逆に全国平均を下回っており、特に運動器にて差が顕著に表れている。当院は高齢者の入院が多く、認知症を合併している等の問題があり、運動器でも見守りが外せない状況は多い。在院日数は昨年に比べ10日以上短縮したものの、退院までの取り組みが一層必要とされる。

資料

| 【全国平均】 | | | |
|--------|------|------|-------|
| | 脳血管 | 運動器 | 廃用症候群 |
| 入院時 | 65.4 | 77.7 | 60.5 |
| 退院時 | 86.1 | 98.5 | 75.5 |
| FIM効果 | 20.7 | 20.8 | 15.0 |
| FIM効率 | 0.24 | 0.50 | 0.27 |
| | | | |
| 年齢 | 72.6 | 79.1 | 80.0 |
| 在院日数 | 85.6 | 41.9 | 55.6 |

※ 回復期リハビリテーション病棟協会 平成29年2月 より